

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL. 24

平成29年9月3日 作成者 阿部・古矢

☆第36回安全委員会が8月17日に開催されました☆

※ 今回の報告ケースについて ※

今回の定例会議では平成29年6月1日から平成29年8月8日までに起きた10件の暴力ケースについて報告をしました。夏休みに入り子ども達が施設の中で交流する機会が増えたこともあり、生活の中でお互いの勘違い、相手の気持ちの決めつけ、ゲームでのトラブル、ソファの取り合い、ふざけ合い、職員からの生活指導に対しての不満などで安全委員会対応をしました。久しぶりに22時以降の対応がありましたが、無事に解決が出来て一安心でした。

7月の聴き取りでは、男子ブロック(小学3年生から高校3年生)から高校生の男子児童が部屋のドアを開けたまま着替えプライベートゾーンを見させていることや中学生の児童の威圧的な態度が怖いという訴えがあったので、再度小学生児童を中心にユニット以外の職員が聴き取りを行い職員間で情報の共有をし解決に向かった経過について報告をしました。

～今回の安全委員会で話されたこと～

今回は、上記の男子高校生の日常のケアについて、多くの意見を委員の皆様から頂きました。暴力については(性的暴力も含め)安全委員会対応で「暴力はいけない」「安全委員会の3つの約束を守ること」「暴力ではないかわかり方」について子どもたちに教え学ぶ機会にしていますが、一方で子どもの将来についての課題の整理や不安感情の受け止め、目標の設定なども併せてきめ細やかに関わる事が子ども達の成長に必要であると意見が出されました。日頃、部活動であまり職員と関わる事が少ない子ども達に、私たち職員の方が、子どもとのつながりが少し欠けていたのだと気づかされました。田嶋先生の言葉で「おしかったですね!!」と山岸先生の助言を頂き、初心に帰らせて頂きました。

また、今回、暴力を振るった子が「暴力を振るっていない」と嘘ついたケースがあり、山岸委員長から「久しぶりに嘘をついた子がいましたね」と言われ、安全委員会対応の内容も、「暴力が起きました」～「暴力振るってごめんね」～「いいよ もうしないでね」～「安全委員会の約束事の確認」など、この流れは大切な事ですが、安全委員会対応自体のマンネリ化が起きているのかもしれないと感じました。そのマンネリ化を解決するための取り組みを、当園の安全委員会課が中心となり具体的な取り組みについて考えていくことが安全委員会方式を継続していくためには重要だと感じた会議でした。そして、子ども達からの聴き取り調査の結果から日常的に職員が気づいていないこともあると実感し、改めて聴き取りの大切さ、必要性を感じました。

【お知らせ】

- ☆今年度で山岸先生が委員長を退任されることになりました。とても残念ですが、新しく北翔大学の澤先生が外部委員として当園の安全委員会に力を貸してくれることになりました。
- ☆今年の7周年記念は11月に開催します。田嶋先生の園内研修も行いたいと考えています。
- ☆毎年開催される全国大会ですが、今年は11月28日、29日に山口県で開催されます。

安全委員会に陪席させて頂きありがとうございました。今回報告されたケースの中から、思春期の児童の関わり方について議論されましたが、思春期の児童の対応については私もどう関わって良いのか分からない所があり、外部委員の方々のお話が非常に参考になりました。日々のケアを大切に行うことで子どもの内面に接近し、目標等を共有する事によって適切なパワーへと変えていくことが大切であると学びました。子どもたちの安心・安全な生活を保障することが出来るよう日々努力していきたいです。

児童指導員 阿部 聡志

安全委員会に陪席させて頂きありがとうございました。報告ケースについて議論する中で、子どもたちの内面に職員が接していくケアの大切さ、また日々の子どもとの何気ない会話の中に支援のヒントがあるのだと感じました。自分の子どもたちとの関わり方を見直し、子ども一人ひとりの何気ない変化に気づき、児童の課題を児童と一緒に考えられる養育者になりたいと思いました。これからも安心・安全な生活の支援に努めていきたいです。

保育士 古矢 景子